

「命の大切さを学ぶ教室」開催

12月11日（月）の6時間目に「命の大切さを学ぶ教室」を開催しました。これは、犯罪被害に遭われた方の遺族による講演を聞くことで、命の大切さや犯罪被害に遭われた方が受けた痛み、配慮の必要性などについて理解を深めることをねらいとしている教室です。当日は、知人からの暴力でお子さんを亡くされた方のお話を実際に聞くことができました。犯罪被害を受けた方かけられる「大丈夫？」「わかる、わかる」「それ知ってる」等の何気ない言葉が、逆に心を傷つけることなどについて講演してもらいました。インフルエンザの流行でリモートでの講演会になりましたが、生徒達は各教室でしっかり聞き、いろいろなことに気づけたようです。生徒の感想を紹介します。



被害者としてとてもつらく、思い出したくないことかもしれませんが、つらかった経験を僕たちにわかりやすく教えてください、どれほど命が大切で、自分たちが思っているような軽いものではないことがわかりました。

加害者本人が気づかない犯罪もあるので言葉選びや人との会話の仕方は大切だと思った。被害者自身の本音を言える人を作れるような環境づくりは必要だと思った。辛かった経験について話していただいたので自分が被害者、加害者にならないように毎日の一分一秒を大切に過ごしたい。

「命の大切さを学ぶ教室」の話聞いて、自分の中で思っていた「命」の価値観が変わったと思いました。家族や友達など命は自分のものでもあって、他の人にとっても思い出であり大切なものだと思います。

実体験から学んだことにとっても説得力があり、一つの大きな学びになりました。インターネットが普及する中で言葉の重みを感じる場面も多くなり、今日のお話で改めて心に残りました。これからも一つ一つの言動の重さを意識して生活していきたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。

ご自身の辛い経験を私達のために話してください、ありがとうございました。私は最近、家族のことを鬱陶しく感じる事が多かったのですが、会話のキャッチボールが大切だと聞き、今の家族との時間を大切に生きていこうと思いました。

貴重なお話をしていただきありがとうございました。話を聞いているだけでも涙が出てきてしまい、本当に辛い経験をされたのだと感じました。一つの命の価値の大切さについて考える事ができました。一つ一つの言葉に気をつけ、これからの日々を噛み締めていこうと思いました。

何気なく話していた3つの気をつけなくてはならない言葉や、自分の命は自分だけで成り立っているものではないということ。人によって受け止め方が違うということ踏まえた行動を取るようになっていきたいと思いました。なくなってしまったことで分かる命の尊さや大切さを改めて知ることができました。この話を聞き色々なことを学ぶことができました。

命の大切さを学ぶ教室で故意的にある被害と無意識の被害があり、無意識にある被害はその人が思っていないくとも被害を受ける人にとっては傷つくということが分かった。これから生きていくのに、今日話してもらったことに気をつけ、日常生活を送って行こうと思いました。

ご自身の経験をお話していただき、今ある生命の大切さと当たり前である日常は幸せであることがわかりました。私達の将来のためにお話して下さった、言葉の使い方については知っておかないといけないことだし、相手にも、自分のためになる情報だと感じました。私が、親になったとき、今日聞いた話を思い出したいです。

淡々と実体験をお話して下さるご夫婦に対して、こうやって人前で話せるようになるまでにどれほどの苦労があったんだろうと思うのと同時に、自分たちや息子さんに起きたことをしっかりと受け止め、このような形で誰かのために行動している姿に感激しました。私は、親としての視点は分かりませんが、子供の視点でお話を聞き気づいたことが沢山ありました。今回、お話を聞けたことで当たり前すぎる日常や、親の存在に改めて感謝することができました。

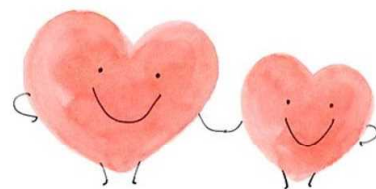
一つの命にたくさんの思い出や気持ちがこもっていることを知った。自分の命は自分だけのものじゃないまま関わってきた人全員と共有しているとわかった。無意識のうちに加害者にならないように今日教えて下さった言葉の転換、「大丈夫」⇒「私ができることある？」としようと思った。大丈夫は一見優しさに見えるけれど凶器になることもわかった。

「無意識のうちに二次被害の加害者になってしまう」という言葉が特に心に残りました。言葉遣いや被害者の方のことを考えて、行動していきたいと思いました。

今回のお話を聞いて今自分が当たり前で生きていることはすごいことなのだと改めて実感しました。「うん、大丈夫」の言葉はその話題を遠ざけるために無意識に使ってしまったたり、「わかる、わかる」の言葉は共に感じてほしいのに違うような意味で解釈され、共感されてしまい傷つけてしまったりしているのだと気付きました。安易に使ってはいけない言葉や自分が嫌だと思ったことはしないことが大切であって、SNSで使われる文字も言葉であることを思って一日一日を大切にしたいです。

今回のお話を聞いて、命の重さが改めてわかりました。息子さんの遺骨に対して「土の中は冷たいでしょう」など本当にいるかのように接していたり、「どちらかが亡くなったら一緒に埋めてあげよう」と考えていたりして、当たり前だと思いますが、息子さんのことを本当に大事にしているのだなと思い、涙が出そうになってしまいました。普段何も意識せずに使っている言葉も、意味を理解しないと相手を傷つけてしまうことを学ぶことができたので、言葉の重さを考えて普段から気をつけておくことが大切だなと思いました。

息子さんがなくなってから苦しかったはずなのにしばらく経って勇気を出して息子さんの話を周りの人に話したりした、とおっしゃっていたことがとても強く印象に残りました。私だったら大切な家族がなくなったことを仲が良い友達にも家族、親族以外の人にいつまで経っても自分の口を開いて話すことは、その人がいなくなってつらくて悲しくて普段はいたその人がいなくなった生活を送るのが日常になったのだからあまりにもできないと思います。「わかるわかる」と息子さんがなくなれたこととペットの犬がなくなったことを同じように共感、同感された、それからは周りの人に話さなくなってしまった、とおっしゃっていたことが心に響きました。本当の家族の一員の、生まれたときから育てた、愛情をすごく注いだ息子がなくなったのと、その人にとっては息子と同じように大切な大事な家族なのかもしれないけれど言葉の通じない、生まれた瞬間から一緒にいたわけではないだろうペットと、息子が亡くなったことを共感されたら「私は勇気を出して息子が亡くなった話をしたのに...他の人に話してもこのような反応をされるのかな...それなら勇気を出して話してその反応ならもう話したくはないな」と私もその後話すのを控えると思います。でも松井田中学校の全員に息子さんがなくなれてつらかった、悲しかった出来事を話して下さったことにとっても感謝しています。今回話していただいたことは深く心に刻んで絶対に忘れません。悲しいことではありますが今後私にも大切な家族がいつかはいなくなるのでそのときにはお話いただいた話を思い出して亡くなったことを話せるような友達に話したり、自分が友達や親族以外の人にも話せるように気持ちの整理をして話せるようにしたいと思います。貴重な話を聞かせていただき本当に感謝しています。



本当に被害にあった人の実話だったのでとても気持ちが伝わってきて、悲しい気持ちになりました。よく使っている言葉は捉え方によって感じ方が変わってしまうし、自分はそんなつもりがなくても知らぬ間に相手を傷つけていることがあるので、言葉を発する前に、これを言われたらどんな気持ちになるんだろうとよく考えてから、言葉を発していくことが大切だと思いました。